

高校教育研究委員会2011年度第4回公開研究会

◆ 研究発表テーマ ◇

エジプトなどアラブの激動を現地で考える —世界の構造変化と歴史的視点—

○研究発表 清水 学先生（帝京大学経済学部教授）

清水先生プロフィール：1942年長野県伊那谷で生まれる。専門分野は中東・南アジア・中央アジアの地域研究、途上国経済発展論、比較経済体制論など。地域研究では現地主義を重視。過去の留学国はインド・ムンバイ（ボンベイ）、エジプト・カイロ。ユーラシア大陸を中心に訪問国70か国以上。東京大学を卒業後、アジア経済研究所、宇都宮大学、一橋大学などを経て現職。現在の関心は、イスラーム世界（アラブ、イラン、トルコ）の変動、金融グローバリズムの歴史的的位置づけ、イスラーム政治運動、パレスチナ問題、米国外交論、東アジア共同体論など。主な著書は『中央アジア—市場化の現段階と課題—』、『中東新秩序の模索—ソ連崩壊と和平プロセス—』など。

* 高校の現場教員から世界史等のレポートを予定しています。



最新の教育研究から高校教育の課題を探る高校教育研究委員会の公開研究会。

今年度第4回をむかえた研究会は、上のようなテーマ・内容で開催します。

今回は、高校教育研究委員会としては異例のことですが、教育以外のテーマで行います。みなさんも最近のアラブ諸国の激動には注目しておられることと思います。チュニジアにはじまり、エジプト、リビアと急速に広がった民主化の大波。リビアの独裁政権の倒壊は全世界に衝撃をもたらしました。中東民主化の波はさらに大きく広がろうとしています。

研究発表をお願いする帝京大の清水先生は、今年9月から11月にかけて2度、エジプト、レバノン、アラブ首長国連邦、カタールを訪問しました。アラブ諸国の最新情報もあわせてご紹介いただけます。高校教育研究委員会としても、いつもと視点を変えて、世界の変化から日本の問題を考えてみたいと考えています。

高校の現場からも実践レポート（世界史でアラブをどう教えるかなど）を予定しています。

みなさんのご参加をお待ちしています。



■日時 12月23日（金・祝）

13:30～17:00

■会場 全国教育文化会館

（エデュカス東京）

地下会議室

問い合わせは 日本高等学校教職員組合（日高教）まで

TEL03（3230）0284 nikkokyo@nikkokyo.zenkyo.org